

## 2023年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2023年5月12日

上場会社名 株式会社かんなん丸 上場取引所 東  
 コード番号 7585 URL http://www.kannanmaru.co.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 野々村 孝志  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理部長 (氏名) 宮永 一彦 TEL 048-815-6699  
 四半期報告書提出予定日 2023年5月12日 配当支払開始予定日 -  
 四半期決算補足説明資料作成の有無: 無  
 四半期決算説明会開催の有無: 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年6月期第3四半期の業績 (2022年7月1日～2023年3月31日)

#### (1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年6月期第3四半期	939	-	△281	-	△273	-	△288	-
2022年6月期第3四半期	-	-	-	-	-	-	-	-

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年6月期第3四半期	△75.72	-
2022年6月期第3四半期	-	-

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年6月期第3四半期	1,585	860	54.3
2022年6月期	1,772	1,171	66.1

(参考) 自己資本 2023年6月期第3四半期 860百万円 2022年6月期 1,171百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年6月期	-	0.00	-	6.00	6.00
2023年6月期	-	0.00	-	-	-
2023年6月期(予想)	-	-	-	-	-

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

2023年6月期の配当予想につきましては、現時点では未定としております。

### 3. 2023年6月期の業績予想 (2022年7月1日～2023年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,296	117.5	△348	-	△347	-	△300	-	△78.94

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 無

当社は2022年9月1日付で連結子会社である株式会社しんしん丸を吸収合併いたしました。当合併により連結子会社がなくなることから、2023年6月期は個別決算による開示となります。

なお、対前期増減率に関しては、個別決算との比較を表示しております。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年6月期3Q	4,351,308株	2022年6月期	4,351,308株
② 期末自己株式数	2023年6月期3Q	539,761株	2022年6月期	539,761株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年6月期3Q	3,811,547株	2022年6月期3Q	3,811,553株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。

また、実際の業績等は様々な要因等により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料P2「1.当四半期決算に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 継続企業の前提に関する重要事象等 .....	3
(4) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	5
第3四半期累計期間 .....	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	6
(継続企業の前提に関する注記) .....	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	6
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	6
(会計方針の変更) .....	6
(セグメント情報等) .....	6
(重要な後発事象) .....	6

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### （1）経営成績に関する説明

当社は2022年9月1日付で当社の完全子会社である株式会社しんしん丸を吸収合併したことに伴い、第3四半期累計期間においては期首から2ヵ月は連結決算でありましたが、当第3四半期累計期間の末日においては非連結決算へと移行しております。上記により当第3四半期累計期間より四半期連結財務諸表を作成していないため、比較分析は行っておりません。

当第3四半期累計期間における外食業界は、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化しているものの、経済活動への制限が緩和され、お客様のご来店数は徐々に回復傾向の兆しが現れてきております。しかしながら、ロシアのウクライナ侵攻に端を発する世界的な物価高騰による、仕入原価の上昇及び水道光熱費の増加、パート・アルバイトの時給アップ、従業員確保に係る採用費用の増加等、販売管理費の増加が顕著になっております。

また、コロナ禍におけるお客様の勤務スタイルや会食機会の変化、大人数によるご宴会の縮小、二次会利用の激減等による店内飲食需要の減少に伴い、コロナ禍以前の売上状況には未だに届いていない厳しい状況で推移しております。

このような状況の中、当社が主力として運営しております居酒屋業態においては、コロナ禍においても飲食店でご飲食する素晴らしさを感じていただけるように、企業理念を具現化するための20項目を定め、スタッフ全員が一丸となってお客様に笑顔でお帰りいただくように注力しております。さらに第2四半期会計期間より導入しましたミステリーショッパーによるお客様の声を店舗の営業に活かすことによって一人でも多くのお客様にご来店いただけるお店づくりをしてまいります。

また、前期に新たに業態変更した5店舗の業績への貢献を確かなものにし、店舗オペレーションの改善を通じて、店舗資源の効率化を図ってまいります。

この結果、当第3四半期会計期間末の店舗数は、大衆割烹「庄や」20店舗、「日本海庄や」4店舗、カラオケルーム「うたうんだ村」1店舗、大衆すし酒場「じんべえ太郎」5店舗、Italian Kitchen「VANSAN」2店舗の合計32店舗となっております。

上記の結果、当第3四半期累計期間の業績は売上高939,301千円、売上総利益は634,905千円、販売費及び一般管理費については916,469千円となり、営業損失は281,564千円となりました。

経常損失につきましては273,118千円、税引前四半期純損失282,765千円となり、四半期純損失288,621千円となりました。

また、当社は、料理飲食事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

### （2）財政状態に関する説明

#### （資産）

当第3四半期会計期間末における流動資産は829,211千円となり、前事業年度末に比べて254,611千円の減少となりました。これは主に、現金及び預金が203,659千円減少したことによるものであります。

また、固定資産は756,052千円となり、前事業年度末に比べて66,981千円の増加となりました。これは主に、建物等の有形固定資産が100,558千円増加、差入保証金が34,886千円減少したことによるものであります。

#### （負債）

当第3四半期会計期間末における流動負債は279,930千円となり、前事業年度末に比べて103,410千円の増加となりました。これは主に、短期借入金の増加50,000千円、1年内返済予定の長期借入金の増加1,213千円、未払消費税の増加25,909千円によるものであります。

また、固定負債は444,930千円となり、前事業年度末に比べて20,021千円の増加となりました。これは主に、長期借入金の増加26,284千円によるものであります。

#### （純資産）

当第3四半期会計期間末における純資産は860,402千円となり、前事業年度末に比べて311,061千円の減少となりました。これは、四半期純損失計上及び配当金支払の結果、利益剰余金が310,512千円減少したことによるものであります。

（3）継続企業の前提に関する重要事象等

当期に入り第2四半期半ばまでは、新型コロナウイルス感染症第7波及び第8波による感染者数の大幅な増加により、お客様がご来店を控える動きが顕著となりましたが、当第3四半期会計期間においてはご来店するお客様の来店客数の漸増傾向が確かなものになり、売上高の回復基調がみられました。しかし感染者数増に起因する低迷期間で生じた損失の改善には至らず、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象または状況が継続しております。

このような状況を解消するために、当社は、事業の収益改善と資金繰りの安定化を目的とした事業再構築の二本柱を改善策として実施してまいります。

一つ目は、居酒屋業態においては、自社ブランドへの業態転換と新規業態Italian Kitchen VANSANをオープンしております。具体的には、居酒屋業態においては既存ブランドである庄や・日本海庄やの活性化を図るとともに、単一事業ポートフォリオを見直し、自社ブランドであるじんべえ太郎への業態転換を3店舗、VANSAN業態を2店舗進めております。当社のDX化や店舗設備においても補助金を活用しながら導入・更新を進め、これらの対応策と既存店舗の活性化により全体の売上高の回復とともに店舗収益改善と事業の効率化を図り、営業損益の改善を行ってまいります。加えて、当期に入り店舗のサービス品質・お客様満足度の向上、QSSCAの徹底と向上を目的にミステリーショッパーを導入し、その実績結果を踏まえ、PDCAサイクルを回す体制を構築しております。

二つ目は、資金繰りの安定化のため、政府系金融機関並びに民間金融機関からの協調融資による新型コロナウイルス感染症に関する特別貸付の長期低利融資等を活用し、運転資金の維持確保のため一定額のキャッシュ水準の積み増しと維持に努めております。

当社は、当第3四半期会計期間末現在で、現預金残高745,701千円、純資産残高860,402千円を有しており、現時点では安定的な財政状態を維持しております。そのため、これを基盤として上記対応策を進めていくことにより、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。

（4）業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年6月期の通期業績予想につきましては、2022年8月12日に公表しました業績予想を修正いたしました。詳しくは2023年2月14日に公表しました「第2四半期業績予想と実績値との差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年6月30日)	当第3四半期会計期間 (2023年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	949,360	745,701
売掛金	25,323	40,098
原材料	9,898	12,174
前払費用	19,283	19,059
その他	79,958	12,177
流動資産合計	1,083,822	829,211
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	143,337	225,399
土地	213,034	213,034
その他（純額）	21,239	39,736
有形固定資産合計	377,612	478,170
無形固定資産	13,165	12,976
投資その他の資産		
差入保証金	232,910	198,024
その他	73,831	73,052
貸倒引当金	△8,449	△6,171
投資その他の資産合計	298,293	264,905
固定資産合計	689,070	756,052
資産合計	1,772,893	1,585,264
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	31,347	40,610
短期借入金	-	50,000
1年内返済予定の長期借入金	46,664	47,877
未払法人税等	4,910	6,583
賞与引当金	700	4,764
その他	92,895	130,096
流動負債合計	176,519	279,930
固定負債		
長期借入金	316,666	342,950
資産除去債務	93,043	93,952
その他	15,199	8,028
固定負債合計	424,909	444,930
負債合計	601,429	724,861
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	50,000	50,000
資本剰余金	313,600	313,600
利益剰余金	1,423,551	1,113,038
自己株式	△622,129	△622,129
株主資本合計	1,165,022	854,509
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	6,442	5,893
評価・換算差額等合計	6,442	5,893
純資産合計	1,171,464	860,402
負債純資産合計	1,772,893	1,585,264

（2）四半期損益計算書  
（第3四半期累計期間）

（単位：千円）

	当第3四半期累計期間 （自 2022年7月1日 至 2023年3月31日）
売上高	939,301
売上原価	304,395
売上総利益	634,905
販売費及び一般管理費	916,469
営業損失（△）	△281,564
営業外収益	
受取利息	15
受取配当金	83
その他	8,393
営業外収益合計	8,492
営業外費用	
支払利息	38
その他	8
営業外費用合計	46
経常損失（△）	△273,118
特別損失	
減損損失	1,451
貸倒引当金繰入額	7,826
その他	369
特別損失合計	9,647
税引前四半期純損失（△）	△282,765
法人税、住民税及び事業税	6,598
法人税等調整額	△742
法人税等合計	5,856
四半期純損失（△）	△288,621

（3）四半期財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）

該当事項はありません。

（会計方針の変更）

（時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用）

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。）を当第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。なお、四半期財務諸表に与える影響はありません。

（セグメント情報等）

当社は、料理飲食事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

（重要な後発事象）

（資金の借入）

当社は、2023年3月14日の取締役会決議に基づき、次のとおり資金の借入を実行しております。

借入の概要

1. 借入先	日本政策金融公庫
2. 借入金額	1.5億円
3. 借入条件	固定金利
4. 借入実行日	2023年4月3日
5. 借入期間	10年
6. 資金使途	運転資金